ティーチング・ポートフォリオ

筑波学院大学 経営情報学部 ビジネスデザイン学科

古 家　　晴 美

筑波学院大学
TSUKUBA GAKUIN UNIVERSITY

目次

教育の責任 1

1.何を担当しているのか 1

2.担当科目 1

教育の理念 2

1.身近な環境、異質な文化・価値観にも好奇心・理解を持てる学生の育成 2

2.新たな知識を得た驚きとよろこびを感じ取れることを目標とした授業 2

3.アクティブラーニングを取り入れた地元茨城を海外に対して表現する教育 2

教育の方法 3

1.講義：視聴覚教材・ワークシート取り入れたを取り入れた授業 3

2.講義における理解とアクティブラーニング 3

3.茨城を体感できる授業 3

教育の成果 および 今後の目標 9

参考資料 10

教育の責任

1. 何を担当しているのか

本学で担当しているのは、食および生活のあり方を通してみた日本文化および地域文化の理解と、それをいかにして留学生や外国人にも伝えるか、また異文化との比較の中で相対化して、どのように理解できるかについて考察することである。

食を通して見た社会と文化の理解

日本人の生活文化

地域文化理解（今年度から、特に茨城県の文化を理解するための講座を開設した。）

2. 担当科目

現在（2022 年度現在）の担当科目とその概略は以下のとおりである。

科目名	対象学年	受講人数※	授業形態	必修選択	科目区分（カリキュラムにおける位置づけ）
日本人の生活文化	1-4		講義	選択	総合教養（1年次から履修できる教養系科目）
日本の民俗			講義	選択	総合教養
現代社会と地域文化 1	2-4		講義	選択	専門基礎・共通（コース共通の専門科目）
地域デザイン演習 C1	3-4		演習	選択	発展科目
地域デザイン演習 C2	3-4		演習	選択	発展科目
地域研究 A、アジアの歴史と文化、現代社会と地域文化1	2-4		講・演	選択	専門基礎
地域研究 C、地域デザインと生活文化	2-4		講・演	選択	専門基礎
ロジカルシンキング②			講・演	選択	
実践科目A－1	1		講・演	選択	
実践科目A－2	1		講・演	選択	
実践科目 B					
実践科目 C	2	17	講・演	選択	
卒業研究	4	9	演習	必修	

※受講人数は過去の実績による平均受講人数

教育の理念

1.　身近な環境、異質な文化・価値観にも好奇心・理解を持てる学生の育成

社会全般に自分とは異なる環境の価値観や文化への理解や好奇心が停滞している傾向にあることを切実に感じている。本学で教職について 20 年を超えるが、学生の間でも自分の周囲の環境に対しては非常に敏感であるが、一部の者を除き、自分の生まれ育った地域の過去、異なった世代への理解、異文化への理解や対する知的好奇心が薄れつつある。積極的に周囲の文化や生活環境、食生活にも好奇心や理解を持てる学生を育成したいと希望している。

2.　新たな知識を得た驚きとよろこびを感じ取れることを目標とした授業

毎回の授業で、新たな知識を得ることの驚きとよろこびを感じ取れる授業を行うことが目標である。例えば、天皇制が天皇と米との関係によってどのように意味づけられているのか、天婦羅はどのような形で日本に入って来たのか、箸はどうして使われるようになったかなど身近な問題を解説しながら、自分自身の文化への理解を深めていく。

3.　アクティブラーニングを取り入れた地元茨城を海外に対して表現する教育

2019 年度から「茨城を知る」と言う副題で、基礎科目に茨城の自然・地形・地理・交通・産業・歴史・文化・景観などを多角的に紹介した講座を開設した。本学の場合、日本人学生の半数以上が、地元茨城の出身であると同時に、卒業後、茨城県内に就職を希望する学生が多い。どの分野に就職するとしても、地元と強い連携を持ってきた本学としては、学生に最低限、茨城についての基礎知識を身に着けてから社会に送り出したいと考えている。

また、県内に目を向けるだけでなく、この国際化の時代、それを海外に対してどのようにアピールしていくかについても考える機会を与えてみたい。アクティブラーニングの中で、自主的に問題点を発見し、それをどのような形で解決していくか、チームワークとしてどのように遂行していくかなどについても、教育プログラムの中に積極的に取り込みたい。

教育の方法

1.　講義：視聴覚教材・ワークシート取り入れた授業

事前学習：予習としてテキストを講読してくることを課題とする。また授業内でそれに関する小テストを実施する。

出席確認：テキストに即したワークシートを配付し、小テストとして内容理解を確認する。

視聴覚教材：授業内では、視聴覚教材を多用し、学生の理解を促す。

事後学習：次回までに課されたトピックに関する課題として提出する。

2.　講義における理解とアクティブラーニング

①講義で現代社会が抱える諸問題を理解したのち、各自がそれに関わるトピックをインターネットで調べたり、訪問調査をしたりする。

②3、4 人のチームに分かれ、そこで互いの調査内容を発表する。

③その中で相互に採点し、最多得点を取ったものをそのチームの代表テーマとする。

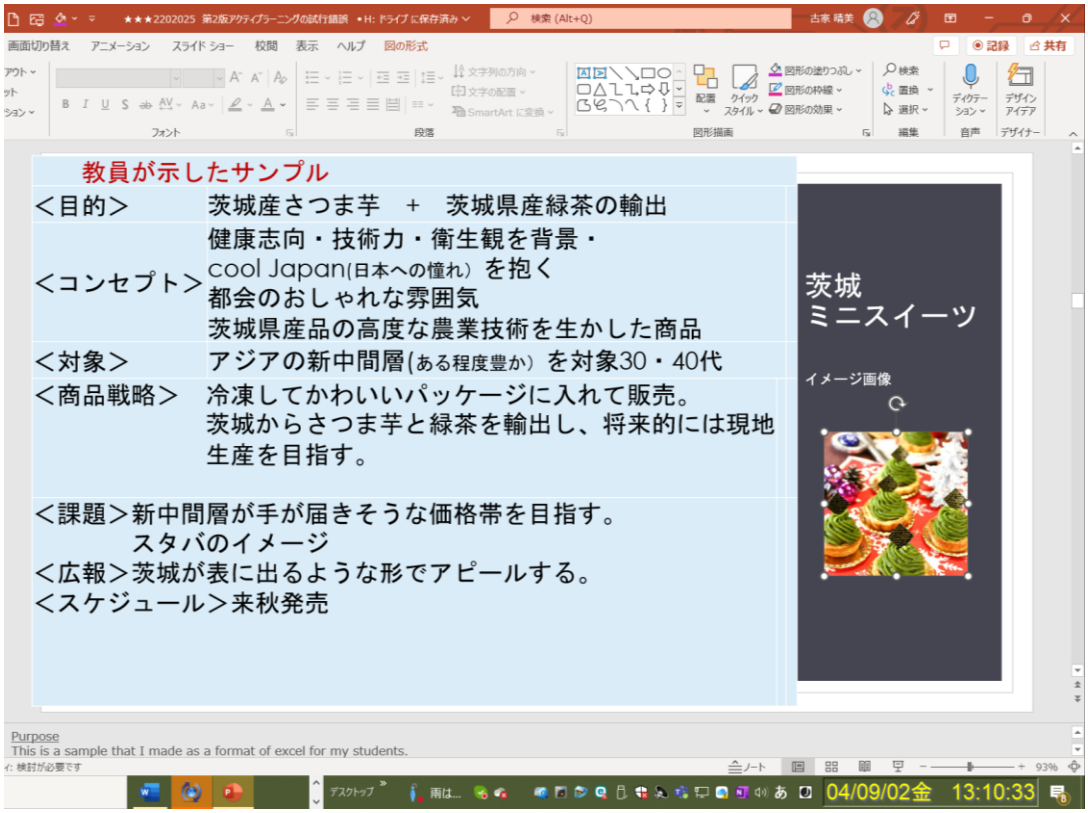
④そのテーマに関して、チームの仲間で分担しながら、さらに詳細な情報を収集し、最終発表に備える。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1								
2								
3		チームNo				学籍番号		
4						氏名		
5								
6	発表者名				発表者名			
7	トピック		（魚名）		トピック		（魚名）	
8			5点満点				5点満点	
9		資料集め				資料集め		
10		資料まとめ				資料まとめ		
11		問題点の抽出				問題点の抽出		
12		解決策の提示				解決策の提示		
13		合計点				合計点		
14								
15	発表者名				発表者名			
16	トピック		（魚名）		トピック		（魚名）	
17			5点満点				5点満点	
18		資料集め				資料集め		
19		資料まとめ				資料まとめ		
20		問題点の抽出				問題点の抽出		
21		解決策の提示				解決策の提示		
22		合計点				合計点		
23								

上段：チームミーティング、

左：チーム内相互評価票

⑤この際、学生がゴールをイメージしやすいように、教員がサンプルを提示することが肝要である。（以下、**茨城の食を紹介する輸出品作成企画**がテーマの回）



教員が提示したサンプル

⑥チーム単位で、クラスで発表し、採点する。その際、どこが優れていたか、不足していたかについても明示する。

チーム別プレゼン評価票

チーム ＿＿＿＿＿＿

学籍番号 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

氏名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

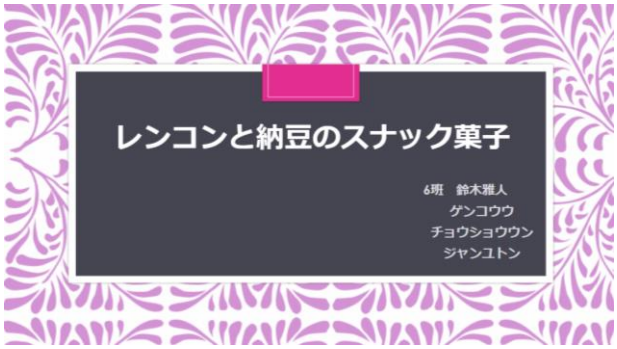
	資料収集･まとめ	問題点抽出	改善点の提示	スライドの工夫	発表態度	合計(25 点満点)
1 班						
2 班						
3 班						
4 班						
5 班						

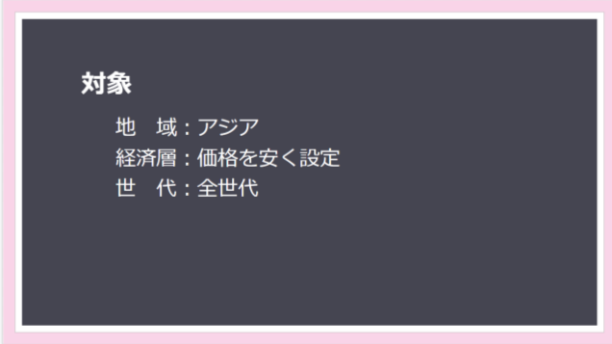
チーム別のプレゼンテーション

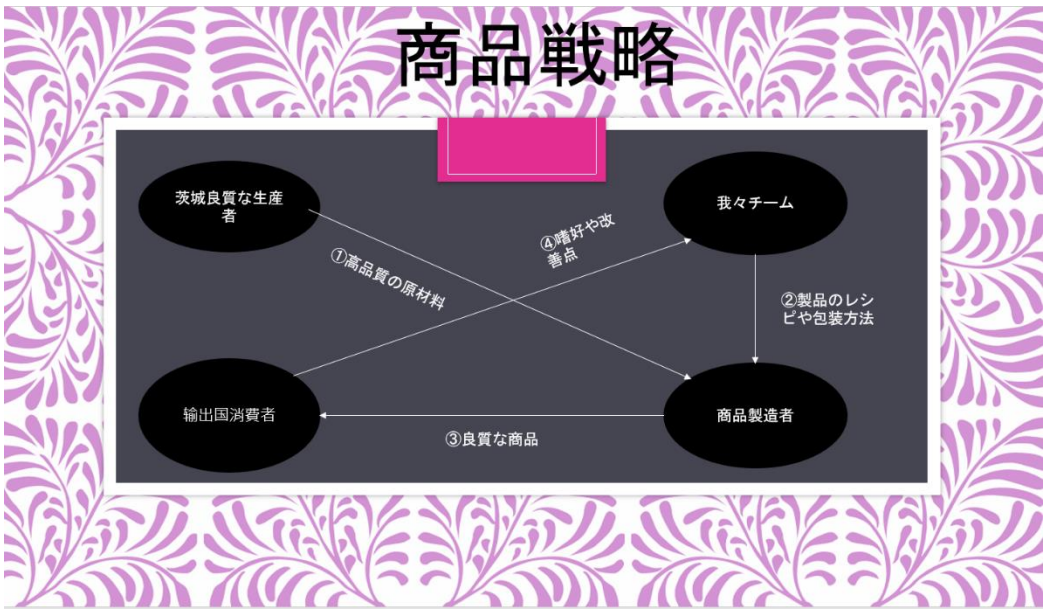
外部講師からのコメント

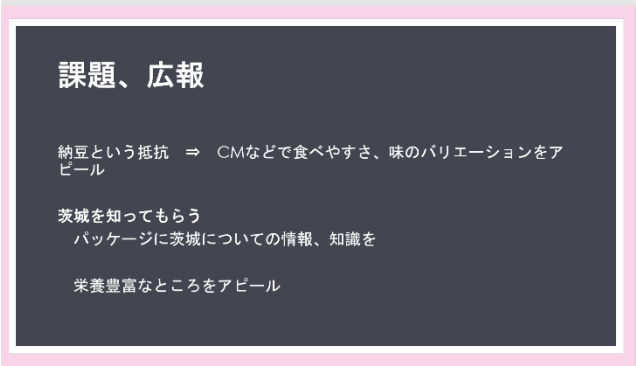
⑧教員及び、外部講師からもコメントする。
⑨優勝チームから順に期末テストの点数に追加点を付与する。

学生の作品









3. 茨城を体感できる授業

最近の学生は、virtual realiy（仮想現実）で満足し、それを現実として受け止めることが多いように感じている。実際に人や物に触れることによって生み出される多角的な現実世界について認識を深めることができるように、可能な限り実習を取り入れている。特に地元茨城を意識した内容のものを積極的に取り入れてきた。

- 1999 年～2018 年　たむら塾

築地の料亭「たむら」の３代目当主、故田村隆氏を１０年に亘り、外部講師として年１回招聘し、茨城の特産物（レンコン、かぼちゃ、さつまいも、ねぎなど）を使用したメニューを独自に考案していただき、料理講習会を学生対象で開催した。

右端が故、田村隆氏、毎回、２０名の学生が参加し、学生にも好評であった。

- 茨城県５地域（県北・県央・鹿行・県西・県南）のゼミ巡検

２０１８年度に３年生対象の発展科目で、県内全域の５地域を巡検し、各地域の代表的農産物の生産者にインタビュー調査を行った。一人が学生が卒業研究として、そのデータを元に、ホームページサイトを作成し、それを学外にも公開した。後日、和歌山県の業者が、このHPを見て、生産者を紹介してほしいとの連絡が入ると言う、出来事もあった。学生が社会のネットワークの形成に１つ貢献した例と言えよう。

コンニャク生産者の蛭川克則さんを紹介するHP

蛭川さんと発展科目のメンバー

１名撮影担当

- 本学と地域連携協定を結んでいる結城郡八千代町において開催された「八千代町の未来を創るアイデアコンテスト」に八千代町が生産量全国１位を誇る白菜をご飯代わりに使用しサラダ感覚で食べられる「白菜のり巻き」を考案し、太巻き祭りずしの技法に詳しい川野泰子氏からご指導いただき、コンテストに出品し参加して３位に入賞した。

川野さんと一部メンバー

川野さんの指導のようす

９種類の白菜のり巻きのサンプル。

白菜の塩漬けを塩抜き、水切りし、ご飯の代わりに使用する。サーモンや厚焼き玉子、魚肉ソーセージなどうま味のあるたんぱく質との組み合わせが、試食した２０～６０代にまで幅広く支持された。

- ２０１９年度から地元、霞ヶ浦歴史博物館の学芸員である千葉隆司氏の協力を得て、茨城の地形・地質・自然・地理・農業・漁業・工業・交通・流通・歴史・景観など多角的に講義を行い、学生にも地元企業へのインタビュー調査とそのプレゼンテーションを課している。

  また、その一環として、筑波山から霞ヶ浦へバスで移動しながら、地質や地形を実際に見学し、それが現在の産業（例えばブランド米の栽培、果樹園経営やレンコン栽培など）とどのように関わっているかについての理解を深めた。

学芸員の千葉氏から縄文時代の貝塚と、その形状と土壌が現在どのように変化しているかについて説明を受けている学生たち。

教育の成果 および 今後の目標

本年度は、特に学外授業に注力している。つくば市内で２か所、かすみがうら市内で１か所の村落部でフィールドワークを実施した。伝統的村落における祭事が、どのように変化し、また、何が「伝統」として生き残るか、それはどうしてか、と言う問題から、現代社会を生きる「人間とは何か」と言う問題を投げかけ、調査結果をレポートにまとめ、発表、ディスカッションさせた。

グローバルで持続可能な社会を目指す現代において、実は身近（地域）に多くの存在する異文化を看過することはできない。実際に、ムラ社会を歩いた学生は、そのような異文化、未知の文化を自分の目で発見している。その中にそれまでに自分の世界には認められなかった価値観を見出し、それを理解しようと努めている。

学生たちは、専門知識を身に付けると同時に、自分で実際に見たものを自分自身の言葉で表現すると言う貴重な機会を得たと考える。異文化とは海外の文化ばかりではない。地域の異文化も、彼らにカルチャーショックを与え得る。

グローバルでローカルな複眼的視点で社会をとらえ、自ら情報を発信していくことは「自他共栄」の社会を築く基盤になることであろう。社会に対する将来的なビジョンを持つと同時に、自らがその中でどのように活躍していくかのイメージを描くことができたのではなかろうか。

視聴覚教材・話し方・説明・アドバイス・評価方法・質疑応答・学生の参加・私語の対処・授業の改善・分野への興味・為になる知識取得など多項目にわたり、学生の評価が高かった。

✓ その他，担当した学生の成果物（作品や発表の様子等）や教育に関する受賞歴があれば記載

２０１９年２月「八千代町の未来を創るアイデアコンテスト」で３位に入賞。

参考資料

授業改善報告書（過去３年分のもの）

※2020 年度のファイルが開けないので、そこが欠如しますが、提出させていただきます。

古家晴美　授業改善報告書 2021 前期 (version 2).xls - Google スプレッドシート

(古家晴美)授業改善報告書 2021 後期－専任用－ (version 1).xls - Google スプレッドシート

..¥(古家晴美)授業改善報告書 2022 前期－専任・基礎ゼミ担当者用－.xlsx

..¥(古家晴美)授業改善報告書 2022 後期－専任・基礎ゼミ担当者用－.xlsx

✓ 教育の方法等で取り上げたもについて，エビデンスとして提示できるものを掲載。ICT 関連のもので公開するのが難しいものは「部外秘」としてもかまいません